

「希望はわたしたちを欺くことはありません」



宗教部長
佐々木 哲夫

ギリシア神話のパンドラが黄金の箱をあけたとき、そこから出てきたものは、病気、盗み、ねたみ、憎しみ、悪巧みなど、世のあらゆる悪でした。そして、最後に箱の中から出てきたのが希望でした。もしもの時のためにプロメテウスが箱の底にしのばせておいたのです。将来における実現を願う、それが私たちの知っている希望です。他方、標記の聖書に記されている希望は「わたしたちを欺くことはありません」と断言されている希望です。

希望はわたしたちを欺くことはありません。わたしたちに与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。
(ローマの信徒への手紙五章五節)

「欺くことがない」を直訳するならば「恥をかかせない」です。砂漠の旅人が見る蜃気楼のオアシスのように近づいて行くと消えてしまう希望ではないというのです。ここに私たちの知っている希望と異なるもう一つの希望が示されています。ビクトール・フランクルが希望について示唆を与えてくれています。フランクルは、一九〇五年にウィーンに生まれ、フロイトやアドラーに師事して精神医学を学んだ医師です。彼の一家は平和な生活を続けていたのですが、第二次世界大戦のドイツ軍ヒトラーによってアウシュビッツへと送られてしまいます。理由は、彼らがユダヤ人だということだけでした。アウシュビッツで妻と子供たちと両親は、ガス室でまた飢餓のために亡くなります。彼だけが奇跡的に助け出され、戦後、その体験を基に出版されたのが『夜と霧』などの著作です。

フランクルは、希望に二種類があることを記しています。一つは将来に支えをおく希望、他方は永遠に支えをおく希望です。特に、後者は、解放されて外の世界で自由な生活を送るといような無理な要求を将来に背負わせることなく、日常において人々の気持ちをしっかりと持たせてくれたのです。収容所生活で気分のふさいだ事実の一つは収容所生活の終わりの期日が分からなかったことだったと多くの収容者が証言しているとおりです。永遠に支えをおく希望は、将来ではなく私たちが生きている今を有意義なものにしてくれます。そして、それはさまざまに考え方を生み出します。例えば、大学から何が与えられるかと将来に期待するだけでなく、大学に今何を為すことができるかと考えることです。今を大切にすることを希望をもって東北学院は一二五年目の歩み続けています。

TOHOKU GAKUIN UNIVERSITY

大学礼拝

WORSHIP SERVICE

2011年
サマーカレッジ
秋季特別伝道礼拝特集号



CHAPEL NEWS
第117・118 合併号

「主の憐みは深い」

マタイによる福音書
第9章 35節～38節



日本基督教団
国分寺南教会牧師

深山 祐

私たちは、この世の法に触れなければ、それでよいと言っているではありません。つねに、神と人との前に真実に生きなければならぬ者ですが、実際、現実には、神に対して、人に對しても、つねに真実でなく、主なる神の教えに背く不誠実な生き方を繰り返している者であります。ほかならないこの私自身が、そのことをよく知っております。「罪の値は死なり」(ローマ六・二三)という聖書のことは通り、わたしの罪、それはまさに死に値する罪ですが、神様の憐みにより赦されてきたのです。

ウイリアム・パークレーは、スコットランド教会の牧師で、英国の北、グラスゴー大学で長年教え、新約聖書全体の註解書を書いた人ですが、その註解書の中で、英国の初期の伝道者ホイットフィールドが刑場にひかれてゆく囚人を見た時、「神の恵みがなかったならば、そこに行くのはまさにこの私なのだ」と語った言葉を、私たちに伝えていますが、それは、まさしくこのような自覚から出た言葉であるように思います。

主イエス・キリストが、イスラエルの北のガリラヤ地方で伝道を始められ、弟子たちを招き、弟子たちと共にガリラヤ中の町々を回って、ユダヤ教の会堂で教え、神の救いの到来を宣べ伝え、さらに人々を苦しめているあらゆる病気やあらゆる患いを癒されました。ことばと癒しによる伝道でありました。マタイによる福音書は、同じマタイの四章の終わりの言葉を、ここ九章三五節において再び繰り返しておりますが、三六節では、「群衆が、飼い主のいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれた」と、四章にはない言葉をマタイは記しています。

イエスさまの周りには、病人だけでなく、あらゆる人、すなわち、群衆が押し寄せてきたが、それらの人々が、飼い主のいない羊

のように弱りはて、倒れているの見て、主イエスは、心動かされ、深くあわれまれました。

「深くあわれまれた」という言葉は元々「内臓、はらわた」に当たることばからできた語で「内臓、はらわたが揺り動かされるほど深く憐れまれた」という意味で、主イエスにそのような深い憐れみ同情を呼び起こしたものは「群衆が、飼い主のいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て」からであります。

一見、肉体的に健康に見える人々も、また精神的に困難の中にあっても、倒れ伏すような状態に見えない人々も、主イエスの目から見ると、まさに、飼う者のない羊の群れのような状態であったのです。これは、まさに東日本大震災の被災を受け、放射能の汚染にさらされている今日の日本の姿であります。私たちは、牧者のいない羊のように弱り果て、さまよい、倒れ伏しているというのが、聖書がここで言おうとしている意味なのです。

イスラエルは羊を飼う地域であり、羊飼いが必要であります。しかし、羊飼いが誰でもあり、誰でなければならぬかかと言ったことが大切であり、そのことを、わたしたちは本学院の礼拝を通じ、また、日曜日の教会における主の日の礼拝を通じ、求めてゆくと、まことの羊飼いに会おうことが出来るのです。

みなさんお一人ひとりが、「主は羊飼い、わたしには何も欠けることがない」と詩編の中でダビデが歌ったように(詩二三編)、恵み深い主なる神と出会い、失われた羊のような私たちをどこまでも見いだそうとするまことの羊飼いであるイエス・キリスト(ルカ一五章)を見出されることを切に希望してやみません。

◆深山 祐 牧師

一九四一(昭和一六)年に生まれる。一九六四(昭和三九)年明治学院大学文学部英文学科卒業後、一九六八(昭和四三)年同大学院文学研究科修士課程修了。一九七四(昭和四九)年日本聖書神学校卒業。一九七九(昭和五四)年東京神学大学博士前期課程(組織神学)修了。一九七九(昭和五四)年〜一九八〇(昭和五五)年グラスゴー大学トリニティカレッジ(神学部)留学。二〇〇六(平成一八)年聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化科学研究科博士前期課程修了。二〇二一(平成三三)年同博士後期課程修了「博士(学術)」。

この間、中学高等学校専任教諭、短期大学専任講師、大学教授を勤める。現在、日本基督教団国分寺南教会牧師、府中刑務所教誨師。

深山先生には十月四日(火)に泉キャンパス、五日(水)に土樋キャンパス(朝)の礼拝をご担当いただきました。

「私にも夢がある」

コリントの信徒への手紙一 第12章12節～28節
マタイによる福音書 第25章40節



日本基督教団
明石ペテル教会牧師
鈴木 眞

「私には夢がある」(Have a Dream)とは、故M.ルーサーキング(1929.1.15～1968.4)牧師の名説教。人種差別を撤廃すべく、公民権運動を展開する中、銃弾に倒れた。しかし今日、この夢は実現しつつある。まさに「幻のない民は滅びる」(箴言二九の一八)である。諸君の夢は何だろうか？

私は、青年期、アフリカの父と呼ばれたA. シュバイツァーやネパールで活躍した岩村昇医師の影響で、医者になる献身を目指したが、その夢は叶わなかった。二五歳頃、転勤先の福岡で、ウエイン宣教師が、海で溺れていた女性を助けて犠牲となった。彼の死はキリストの十字架、私の身代わりの死そのものだった。再度献身して神学校(西南学院)に入学、牧師に導かれ、今日まで来た。それを知った方が「心の医者になつたね」と言ってくれた言葉が忘れられない。妻子を亡くし、一人暮らしのマルチンの夢枕に「私(イエス)が、明日あなたの所に行くよ」現われた。心待ちにしていると、倒れかかったお爺さん、乳飲み子を抱えたお母さん、腹ぺこで食物を盗んだ少年が目の前に現

れた。次々手助けしている内に、日が暮れてしまった。その晩、又不思議な夢を見て、お爺さん、お母さん、少年は、それぞれがキリストだったと知った。(トルストイ作『靴屋のマルチン』)愛あるところに神あり。キリストが再びこの世に來られる時、人々を羊と山羊にふるい分けるとある(マタイ二五章)。空腹な人、渴いている人、宿を求める人、裸の人、病人、牢に在る人等、キリストがこうした「最も小さい者の一人一人」(語源…存在感の小さい人、弱い立場の人)になつて登場される。私どもは、そうした人と、どう向き合うかが問われる。羊はそんな人に、愛のある行為・行動をする人のことで永遠の命に入るが、山羊は何もしない人で、永遠の刑罰に入ると、結んでいる。「ぎょうかい」教誨(教え諭す)師の働き」とは上記の「物を盗んだ(窃盗)」「少年達や「牢に在る人」(受刑者、被収容者)らの話しに耳を傾けるとか、出院所後に役立つ講話をする仕事だ。動機は、子供時分に親族の兄弟殺しやアルコール依存で殺害事件があった事等で「血の罪」(新改訳・詩五一の一四)を実感して育った。かたや牧師になつてから、同級生や教え子の尊属殺人が起こつて、非行少年や成人の更生のボランティアを夢見た。イエス・キリストが正しい人でなく、罪人を招くために來られたのだから(マルコ二の二七)。彼らのよき「援助する者」(向き合つて取扱う)処遇、第一コリント二(二八)、共に生きる者でありたい。

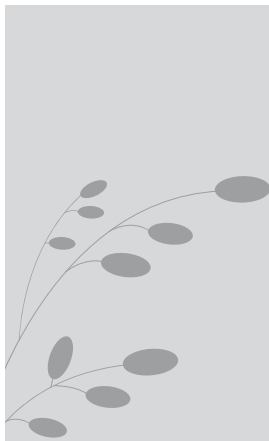
残りの三割は「全く分らない」と答えた。この「分らない」という答えが、今日の病む家庭、社会の病巣を表わしている。一人の大人として道義的責任を感じる。これまで何人かと接して余りにも過酷な環境でよく生きてきたと一緒に泣いたり、又顔の表情が乾いて色艶がない少年をみかけた。よくよく事情を聞くと、彼らは加害者である以上に、実は被害者だと分つてくる。「愛」の字義は「心を受ける」。愛された経験がなければ、愛することはできない。そんな存在感の小さい兄弟達に「愛しているよ。」と伝え続けるのが、教誨師の役割かもしれない。二〇年余り、「最小の効果の為に、最大の努力をせよ」(三浦光子・石川啄木の妹)を旗印にしているが、一人の魂を癒す(更生する)ことが出来るなら、心の医者としては本望だ。近々女子成人か少年を受け入れる「自立準備ホーム」を立ち上げるつもりだ。歴代の首相の一人が「愛とか友情なんかはアイスクリームみたいなもので、とけてなくなる」と皮肉っているが、愛なき世帯こそ滅びの世の中だ。

優秀な人材とは、自分の立身出世だけを求めるのではなく、「体の中で他より弱く見える部分」(第一コリント二の二二)、手助けを必要としている人々の為に、あなたの「手や足、耳や目」(第一コリント二の二二)を使うことだ。諸君は皆、名門で優れた教育を受け、社会に旅立っていく。諸君はどんな夢を描き、実現させるのだろうか。「教育の目的はそれを受けた者が、生き方に何か変化をもたらすことだ。」(教育学者J. デューイ)の言葉をプレゼントして結びとしたい。

◆鈴木 眞 牧師

一九四九(昭和二四)年に生まれる。一九六七(昭和四二)年東北学院高等学校卒業。一九七二(昭和四七)年東北大学医学部付属放射線学校卒業後、民間企業勤務。一九七八(昭和五三)年西南学院大学神学部卒業。一九八四(昭和五九)年東京神学大学神学部大学院修了。日本バプテスト連盟春日原キリスト教会、日本バプテスト同盟国分寺新教会、二見キリスト教会を経て、一九八七(昭和六二)年日本基督教団高砂教会副牧師就任。一九八七(昭和六二)年～二〇〇三(平成一五)年極東聖書学院教授。一九八九(平成元)年日本基督教団明石ペテル教会牧師に就任し現在に至る。

鈴木先生には、十月五日(水)に多賀城キャンパス、土樋キャンパス(夜)の礼拝をご担当いただきます。



第37回 サマー・カレッジ報告



大学宗教主任 原田 浩司

今年三月十一日に起きた東日本大震災により、本年度は前期の講義の開始が五月中旬からとなり、大学行事のスケジュールを大幅に変更することが余儀なくされた。その中でサマー・カレッジは、前期の講義期間が終了した翌日、八月十日から十二日までの二泊三日のスケジュールで、例年通り実施できたのは感謝すべきことである。今年の参加者は学生二十九名、教職員八名、合計三十七名だった。

サマー・カレッジは、キリスト者等推薦によって本学に入学し、学生生活をすごしている学生たちを主な対象として開催され、そして学生自身が主体となって学生相互の研鑽と交流を行うことを目的としている。今年度の研修の主題は、昨年度のサマー・カレッジで学んだ「働くということ」をさらに深め、展開する形で、学生からリクエストがあった「ボランティア」が選ばれていた。折しも東日本大震災を経験し、仙台をはじめ、宮城・岩手・福島の三県の臨海地域の瓦礫処理のために全国から多くの人々がボランティアとして訪れている状況の中で、今回のテーマのもとで学ぶことは非常に時宜にかなう、有意義かつ有益なことだったと思う。

プログラムの第一日目は、土樋キャンパス内の会場で、キリスト教学科二年の石川礎君による開会礼拝から始まった。そして「ボランティアについて」という題のもと、今回の震災後ただちに東北学院大学内に設置された「ボランティアセンター」でディレクターとしての働きを担ってこられた阿部重樹先生（共生社会経済学科教授）から、震災後のボランティアセンターの働きを中心に、東北学院大学の学生たちが行ってきたボランティア活動の実践について講演をいただいた。その中で、阿部先生は学生たちに「その日が初対面だったはずの学生同士が、ボランティア活動を通して、互いの絆が深まり、その日の活動が終わる頃には、互いに友情が芽生えている。そして、人間的な成長と発見を見出すことができる」とボランティア活動に参加することへの積極的な意義について語られた。これまでボランティア活動に参加したことがなかった参加者たちも大いに刺激を受けた。



◆ 共生社会経済学科教授 阿部重樹先生 ◆

講演後に、宿泊先の宮城蔵王ロイヤル・ホテルに移動し、その日の夜は、バイキング形式の夕食に舌鼓を打った。さて、サマー・カレッジの参加者は、所属する学部も学年も様々で、普段はあまり接触する機会のない者同士である。夕食後には、参加者同士の自己紹介も織り交ぜ



◆ 夕食後の親睦のひととき ◆

て、担当学生たちの軽妙なトークによって進行される楽しいレクリエーションが行われ、場は和み、親睦が深められた。



◆農作業ボランティアの様子◆

が、熱中症を予防するため、作業時間を短縮した。午前の作業に参加した女子学生たちの多くは、普段経験しない重労働に体力を奪われ、午後のスケジュールをキャンセルし、急遽DVD鑑賞の時間を設け、他方、男子学生たち、二人の女子学生たち、そして余力のある教員たちはソフトボールで親睦を深めた。親睦を深めるゲームとは言え、試合がはじまれば、自然に双方とも本気モードに切り替わっていく。学生たちも教員たちも、ハッスルプレーの連続で、楽しいひとときだった。



◆ソフトボール大会◆

夕食を終えると、夜は「賛美の時」のプログラム。今回は、野村信先生によるギター弾き語り、学生たち有志によって組織された、ギター、ベース、キーボード、カホンと本格的な編成によるバンド演奏によって、数曲のワーシップ・ソングが歌われ、参加者皆で賛美の歌声をあげた。



◆賛美の時◆

三日目の午前は、再び講演を通しての学びの時が持たれ、北博先生が講師となり「これまで自分がしてきたこと」というテーマで、自身の学生時代の経験談を披露し、学生時代にいろいろなことに向きに挑戦していくことの大切さをお話しいただいた。それに続いて、歴史学科三年の堀啓太郎君と同学科四年の沼田智恵さんの二人が、高校時代やこれまでの学生時代に実際に取り組んできたボランティア活動や、今回の震災におけるボランティア活動についてそれぞれ発題し、学生たちもこれに質疑を行い、意見を交換し合う有意義な時が持たれた。そして宗教主任の野村信先生による閉会礼拝に

よってサマー・カレッジは終了した。今年は、日程上、非常にタイトなスケジュールとなったが、ボランティアについて理解を深める貴重な時となったことと思う。



◆大学宗教主任 北博先生◆

各キャンパスのメッセージ

Izumi

泉キャンパス
大学宗教主任

永井 義之



大洪水の後、神が語る祝福の言葉に「季節の循環」がやむことなく繰り返されるといふ言葉があります（創世記八・一二）。季節が巡り巡っていくのは当たり前と思われるかもしれませんが、大震災を経験したわたしたちは、あれほどの破壊と混乱の後にも、確実に巡ってくる季節の循環は不思議でもあり、また何かしら新しいものを感じるきっかけになります。

家の近くの道路の斜面に、エゴノキという木が生えています。この木は種がどこからか来て生えた実生のもので、春には白い花が釣鐘のように咲き、そのあとでドングリに似た形の実がなるのですがドングリとは違って白い表皮におおわれています。いま、実の表面の皮が割れて中から黒っぽい実がのぞいています。この種を何個かつまんで、庭にまいたら芽を出すのだろうかと思ひ、持ち帰り庭の片隅に埋めました。来春が楽しみです。

Taqazyo

多賀城キャンパス
大学宗教主任

北 博



今年を決して忘れられない年となつてしまいました。大震災と津波によって多くの人命が失われ、皆さんの仲間からも犠牲者が出てしまいました。肉親や親戚、友人知人が亡くなったという人も多いでしょう。そして原発事故も加わって、多くの人が家を失うか、家を離れざるを得なくなり、現在も不自由な仮住まいを強いられています。

私達は、この災害からいくつかの重要なことを学びました。まず、自然の圧倒的な力です。私達はその凄まじさを、身をもって体験した苦です。私達人類はこれまで科学技術の力を過信し、謙虚さを忘れていたのでないでしょうか。次に、現在の科学技術には克服すべき様々な課題があることです。私達は、もっと工夫もっと周到な準備をしていけば、あるいは被害を最小限に食い止められたのではないのでしょうか。科学技術力の更なる可能性とその限界について、今一度考えてみるべき時だと思ひます。

Touchitoi

土樋キャンパス
大学宗教主任

佐藤 司郎



去る十月のある日曜日、新潟市の東中通教会で説教と講演をおこなった。

この教会の創立は古く、一八七五年。本学の創立者である押川方義も草創期のこの教会に関わった（当時彼は、エディンバラ出身の医療宣教師パームの協力者として活動していた）。押川はその後「東北を日本のスコットランド」という高い志をいだき、キリスト教の伝道と教育のため、一八八〇年仙台に赴いたのである。その押川と宣教師ホーイによって建てられた東北学院は、今年で二五年の節目の年を迎えた。

パームのかつての診療所前に立つてはるか仙台に思いを向けると、二二〇年も前の押川の奮い立つような気持ち何となく分かって、不思議な思いにかられた。私たち教員も職員も、そして何より学生諸君も、一緒になってこのキリスト教大学の伝統を継承し、新しい時代に向け、その実質をさらに深めるべく努めたいものである。

編集後記

今年の特別伝道礼拝は、今回実施された後期「回だけ」となりました。例年、前後期二回行われてきたのですが、大震災の影響で前期は中止となりました。今回はおそらく初めてではないかと思ひますが、教誨師をしている牧師の方々をお招きしました。刑務所で受刑者の人々と関わる仕事をしてられる貴重なお話を聞くことができました。（NA）

二〇一二年十一月 東北学院大学宗教部
〒九八〇一八五二
仙台市青葉区土樋二丁目三番一号

◆クリスマス礼拝のご案内

★第二十三回泉キャンパスクリスマス

十二月二日（金） 十八時三〇分
泉キャンパス礼拝堂

第一部

礼拝

説教者・大学宗教主任

原田 浩司 先生

第二部

クリスマスコンサート

クリスマス・メドレー演奏、聖歌隊合唱、みんなで歌おう、キャンドルサービス、他

★大学クリスマス

泉キャンパス・十二月十五日（木）

十時五分

土樋キャンパス・十二月十五日（木）

十六時三〇分

多賀城キャンパス・十二月十六日（金）

十時五分

説教者・日本基督教団 秋田桜教会

雲然 俊美 牧師

オラトリオ「メサイア」合唱

★第六十一回公開東北学院クリスマス

十二月十八日（金） 十八時

土樋キャンパス礼拝堂

説教者・日本基督教団 花巻教会

山元 克之 牧師

オラトリオ「メサイア」合唱